

総合安全保障研究科前期課程第29期学生 選抜筆記試験問題

国際関係論

次の2問に答えよ。

- 問1 今日の国際関係における「グローバル・サウス」概念について、その台頭の背景、どのようなアクターによって、どのような目的で用いられているか（あるいは用いられていないか）、また国際関係の分析概念としての妥当性を中心に論じなさい。
- 問2 以下の語句の少なくとも3つ以上を使い、国際関係論の分析ツールの利点と限界（それぞれの分析視角についてどのような点が優れておりどのような点に限界があるか）について述べよ。使った語句には解答用紙の答案の該当部分に下線を引くこと。具体的な事例やイシューについて取り上げてよい。

ゲーム理論 社会構成主義 現実主義 リベラル制度主義 計量分析 因果関係
規範 効用 実験 妥当性 構造化焦点化された比較 (Structured Focused Comparison)

国際政治史

次の2問に答えよ。

- 問1 1950年代の米ソ関係は核をめぐる軍拡競争などの対立とは対照的に、平和共存を模索するような動きも見られた。後者の動きについて、米ソ各々の意図も踏まえながら具体例を示して説明せよ
- 問2 1972年のニクソン訪中について説明し、その後の国際政治に与えた影響を論じなさい

経済学

次の2問に答えよ。

問1 経済のグローバル化の進展が、国内の経済格差の拡大をもたらしている。この主張の是非を、実証的な例を挙げながら、理論的に論じなさい。

問2 各国における産業構造の変化が国家間紛争の発生に与える影響について論じなさい。

憲 法

次の2問に答えよ。

問1 日本国憲法が予定する権力分立原則の要点を示した上で、自衛隊が憲法9条2項に反しないと解した場合において、防衛省・自衛隊の組織及び活動が、その原則との関係でどのように位置付けられるかを解説しなさい。

問2 日米安全保障条約に関する日本国憲法9条の制約について、論点を整理しつつ解説しなさい。その際、最高裁判例については必ず触れること。

国 際 法

次の2問に答えよ。

問1 国家が国際法上有すると主張される「the right to defend itself against terrorism」とは何か。

問2 国家の刑事管轄権設定に関する国際法上の諸原則（属地主義、属人主義、保護主義、普遍主義）について説明したうえで、普遍主義に基づく管轄権行使が国際犯罪の規制においてどのような意義を有するか、論じなさい。

組織管理論

次の2問に答えよ。

問1 「情報革命」(情報・通信技術の進歩)について、1990年ごろから現在までの主要な出来事を概説し、それらが組織管理をどのように変えたか(今後どのように変えるか)を論じなさい。平易な文章で、わかりやすく論理的に書くこと。

問2 リーダーシップ理論におけるコンティンジェンシー理論について説明しなさい。さらに、自らがリーダーシップを発揮した経験を、コンティンジェンシー理論を用いて詳細に記述・説明しなさい。その際、コンティンジェンシー要因についても言及にすること。

行 政 学

次の2問に答えよ。

問1 日本の行政組織は、日常的な意思決定の方式として、いわゆる「稟議制」を多用しているとされる。この「稟議制」とはそもそもいかなる意思決定方式であり、またその長所と短所はどのようなものか、詳しく説明せよ。

問2 組織における「ライン」と「スタッフ」は、それぞれどのような機能や役割を負っているのか、詳しく説明せよ。